

## 近畿学校保健学会通信

No. 4

昭和40年1月15日発行  
 第12回近畿学校保健学会事務局  
 神戸市東灘区住吉町赤塚山  
 神戸大学教育学部教育衛生学教室  
 TEL 神戸(85)4071

## 才12回近畿学校保健学会の企画について

第12回近畿学校保健学会長 佐守信男

あけましておめでとうございます。

この同じ書き出しで、かつて、この通信の第1号のために川畑愛義前会長の御依頼で執筆したのが、くしくも今日と同じ1月5日である。そして、このたびは、おこがましくも会長として、どうしても述べねばならないことを、いま、記そうとしている。それは、今年の6月13日(日)に予定されている本学会の企画についてである。

青葉若葉のかおる昨年の5月、京都での第11回の本総会で不肖私が会長ときまつたときに、その挨拶として、「とくに教育と関連した学校保健」を、このたびの学会の主題としたいと申し上げた。その「とくに教育との関連」をどのように学会の企画として盛り上げられるかという、現在、この企画の生みの悩みの最中である。

「学校保健は教育そのものである」と私たち仲間では、よくいわれる。しかし、学校保健管理一つを取り上げてみても、学校という教育の場で行なうのであるから教育であるというのでは、学校保健でいう保健管理も、産業衛生でいう衛生管理も、本質は同じである。行なわれている場所が違ふからそれによる違いがでている。ただそれだけのことである。「学校保健が教育そのものである」というためには、学校保健管理についても、「とくに教育と関連した」独自のものがなければならない。ここが、学問的にもむずかしいところであり、これが展開されていなければ、「学校保健法」という法律が公布されている現在でも、学校保健管理は、教育担当者にとっては、ただ煩雑なだけで、学校現場で必ずしも生きてこないものである。

保健教育についてもそうである。「教育基本法」第一条で健康は教育の目的としてうたわれているからといって、医学での報道的知識を子どもたちにただ与えようとしている構えでは、所詮は、教育界からはうとんぜられるはずである。

実は、昨日、街の書店で入手した読売新聞社調査部編の「世界の教育読本」(東洋館出版社昭和40年1月発行)のP173に、次のくだりがでているのに出合った。「日本の学校では、子どもたちの保健衛生といえば、とかく養護教諭まかせ。ところがその養護教諭を持つてない学校も少なくない。なかには養護教諭をおく予算で、英語や数学の教師をふやして、入試競争に血道をあげている向きもないではない。また、東京の教師たちの間では『校務分担で保健担任のオハチが回ってきたら、次の転任先をさつそく物色にかかった方がいい。』との話をよく耳にする。テストに明け暮れる『学力戦争』時代の花形は何といつても、国語、社会、数学、理科、英語の基礎五教科、保健などあつてないような最低の存在、その担任が回ってくるようでは、校長ににらまれた証拠だといっているのである。どこの学校もみなそうだというわけではないだ

ろろが「、、、、、、」この記述内容には、私たち学校保健学会の会員にとつてはいろいろいい分のあることであろうが、この書物は、読売新聞の教育欄に昨年連載されたものを纏めたものであり、新聞記者の筆になるものである。世間一般の学校保健の現場を見る目として、素直に認めねばならない。

学校現場だけではない。昨年の暮に文部省から全国の教員養成大学・学部に要請された昭和40年度の入学定員のなかには、保健という教科に対する定員はないのである。保健体育という名称の教科すらなくなっている。教科以外の教職専門としての教育学、教育心理学においても、学校保健管理すら講ずるところは一般にないのであるから、教員養成大学・学部では、少なくとも形の上では、学校保健に関する研究や教育をする場は、まったくなくすることを要請されているということになる。

「人間の生命はもつとも大切なものである」ということは、戦後、折り目を正したわが国の一つの重要な理念である。一般社会では、新聞、テレビなど、マスコミのなかでも、確かに、何かことあるごとに、この理念が強く打ち出されている。しかし、不思議なことに、教育界ではこの理念は、戦後20年にして以上のようにおき忘れられようとしている。現在の学校現場では、この理念をもとにした学校保健が全然ないとはいわないが、明日の子どもたちの人間形成を担当する教育者を養成する教員養成大学・学部では、保健という教科も保健管理を研究講義する場もなくなつてきているのである。ここでは、この「人間の生命尊重」という理念は、昭和40年の現在で、すでに、まったく消えようとしているといつても過言ではない。それは、明日の人間形成の学校現場では、消えるということである。ひいては、わが国の「人間の生命尊重」という理念は、将来、消えるということを示唆しているということになる。

本学会の会員が貴重な研究を学会で発表し、「学校保健は教育である」と叫んでいる。これは、本学会内のことであり、いわば、教育界とは無縁の集団での出来ごとなのである。

これでいいのであろうか。これが教育界のこんにちの現状であるということとは、誰でもが「人間の生命尊重」の理念を構えているはずであると考えが故に、不思議である。しかし、私たちは、この現状が不思議であるとただ傍観しているだけでいいのであろうか。

私たちは、学校保健が教育界で以上のような現状になった原因について反省しなければならぬ。それには、いろいろな要因があるであろう。しかし、一つの大きな原因は、私たち教員養成大学・学部の保健担当者の学校保健への構え方にあると、私は考えている。「学校保健は教育である」といううたい文句だけではなしに、これの学問的な研究が真剣になされていかどうかである。

学会とは、学問的な研究発表およびその討議がなされる場である。したがって、このような現状に対する学校保健学会の構えは、学問としての「学校保健は教育である」との掘り下げが一つの重要な主題でなければならないと考えている。

第12回近畿学校保健学会を開催するに当たつて、この学会の主題として、「とくに教育と関連した学校保健」を取上げたいという「とくに」とは、「健康の教育が教育学のレベルで成立するかどうか」ということこの具体的な研究発表と討議を主題としたということである。これは成立する方向へ私たちが努力することができれば、学校保健が教育とつながるはけはないと考えるからである。

しかし、この学校保健に関する学問は、学校現場と密接なつながりをもっている。そして、その学会員の構成であるが、これは、戦後いつて、学校長を初め保健主事、一般の教師、養護教諭、学校医、学校歯科医、学校薬剤師や教育委員会に勤務する行政官や大学の研究者など、

実に種々雑多である。種々雑多であるが、学校保健を進展させようという思いは一つであるはずである。

学校保健という学問が学校現場と密接につながっているものであり、学会員の思いが一つであるのであるから、「健康の教育が教育学のレベルで成立するかどうか」という、このたびの学会の主題は、当然、全学会員の関心の中心であつていいし、全学会員のものである。

この全学会員が、学会員としての同じ資格で、しかも、それぞれの立場、それぞれの考えから、この主題にそつて研究を発表し、討議のできる学会の企画をつくりたい。これが、この学会をお引受けしてからの一貫した私の考えである。

この考えのもとに、昨年来、幾回か遠路はるばる近畿六府県から幹事の方々に六甲の山ふところの本学に集まつていただいて企画を練つていただいた。また、別に、幾回か、総会幹事会も深更まで開いて、企画案はいよいよ具体化されつつある。しかし、限られた学会の開催時間内に、この主題を有効に盛り上げるためには、企画作成はさらに慎重でなければならない。また、幹事の考えだけでなく、できれば、幹事でない評議員や一般会員からの御意見も反映したいと考えている。

この企画は、来る2月20日(土)に予定されている幹事会で決定される。各幹事の方々は、いま、真摯にこれに取り組んでいただいている最中であるが、幹事でない方々も、「とくに教育と関連した学校保健」という主題のもとにどんな具体的な企画をもてばいいかということの案を、この幹事会当日にまで間に合うように、当学会事務局宛、お寄せ願えれば幸甚である。

ともあれ、今年は、学校保健の将来を見通して、いよいよ、これが浮沈に関する重大な時期である。大きくいえば、「人間の生命尊重」の理念が、教育の場に入るかどうかの時期である。この理念が、明日もわが国の理念として生きるかどうかの時期である。

あたたが<sup>た</sup>つた3か日はうつつと変つて、今日1月5日の外気は、すごく冷えこんでいる。それにしては、窓ガラスを通して、これを執筆している原稿用紙いっぱいに溢れている日差しは、実にさわやかで、明るい。この重要な時期の昭和40年の年頭に当たつて、会長として、この学会を開催することの責任の重いことをいよいよ痛感している。この来るべき学会が、学会員の皆さんとともに、学校保健の発展に少しでも意義ある学会になるように、そのためのいい企画が生まれるように、努力しなければならないと自分自身にもいいきかせるとともに、いま、これを、祈るような気持でもある。

#### 第12回近畿学校保健学会開催要項

1. 開催月日 昭和40年6月13日(日)
2. 場 所 神戸大学 教養部(神戸市灘区一王山町)
3. 企画ならびに一般演題募集要項については2月20日(土)の幹事会で決定し、本通信のNo5でお知らせする予定

#### 第12回近畿学校保健学会役員

|         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 会 長     | 佐 守 信 男(神戸大学教育学部 教授)          |
| 事 務 局   | 神戸大学教育学部教育衛生学教室(神戸市東灘区住吉町赤塚山) |
| 事 務 局 長 | 武 田 真 太 郎(神戸大学教育学部 助教授)       |

|    |                                                         |                                                 |
|----|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 顧問 | 神戸大学教育学部長<br>兵庫県教育長<br>神戸市教育長<br>芦屋大学 教授<br>神戸市学校保健会 会長 | 棉 道 隆<br>中 村 宏 策<br>片 山 一 男<br>竹 村 一<br>和 泉 正 忠 |
|----|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|

幹 事 (アイウエオ順)

|                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 和 泉 正 忠 (神戸市保健会)   | 伊良子 光 義 (滋賀県保健会)  |
| 伊 東 祐 一 (大阪学大)     | 奥 岩 吉 (京都市保健会)    |
| 大 島 明 雄 (大阪市保健会)   | 片 岡 慶 有 (滋賀県保健会)  |
| 川 口 吉 雄 (和歌山県教委)   | 川 畑 愛 義 (京大教養)    |
| 熊 本 水 頼 (京大教養)     | 合 田 博 (京都市教委)     |
| 榊 原 栄 一 (大阪学大)     | 佐 守 信 男 (神大教育)    |
| 白 川 充 (和歌山医大)      | 千 田 勇 (和歌山県校医会)   |
| 高 木 俊一郎 (大阪学大)     | 武 田 真太郎 (神大教育)    |
| 竹 村 一 (芦屋大)        | 橋 重 美 (天理大体育)     |
| 戸 田 嘉 秋 (神大医)      | 永 井 豊太郎 (天理大体育)   |
| 西 田 義 文 (京都府校医会)   | 長谷川 等 (大阪府保健会)    |
| 富 士 貞 吉 (同志社大)     | 藤 井 す え (大阪市教委)   |
| 細 井 毅 (滋賀大学芸)      | 細 部 新一郎 (大阪市薬剤師会) |
| 本 郷 節 哉 (滋賀県堅田保健所) | 山 岡 誠 一 (京都学大)    |
| 山 本 勝 朗 (大阪市大家政)   | 山 本 伊豆子 (京都市教委)   |

総会幹事 (アイウエオ順)

|                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 和 泉 正 忠 今 出 悦 子 | 大 川 勲 加 藤 哲 夫   |
| 小瀬木 雅 子 佐 守 信 男 | 大 笹 間 弘 渡 谷 重 雄 |
| 清 水 静 武 田 真太郎   | 竹 村 一 塚 本 利 之   |
| 常 松 喬 出 口 庄 佑   | 友 田 喜一郎 戸 田 嘉 秋 |
| 森 西 正 男 横 尾 能 範 |                 |

評 議 員 (アイウエオ順)

|                   |               |
|-------------------|---------------|
| 東 久太郎 青 木 一 英     | 家 村 勲 伊 賀 政 雄 |
| 和 泉 正 忠 伊 藤 一 生   | 伊 東 祐 一 稲 次 優 |
| 今 井 欣 悦 今 井 英 夫   | 今 西 富太郎       |
| 伊良子 光 義 上 田 雄 佐 武 | 上 延 富久治       |
| 宇 川 進 内 田 一 郎     | 大 川 勲         |
| 大 坂 利 大 迫 昌 三     | 大 島 要         |
| 大 西 輝 彦 緒 方 準 一   | 奥 芳 男         |
| 小 沢 忠 治 片 岡 慶 有   | 金 谷 謙 一       |
| 川 口 吉 雄 川 瀬 正 己   | 川 畑 愛 義       |
|                   | 上 田 邦 彦 菊 三 郎 |
|                   | 宇 野 明 雄 吉 夫   |
|                   | 大 島 岩 哲 夫     |
|                   | 奥 藤 哲 夫       |
|                   | 加 河 田 稔       |

|         |        |           |          |            |          |        |        |           |          |         |            |           |         |            |
|---------|--------|-----------|----------|------------|----------|--------|--------|-----------|----------|---------|------------|-----------|---------|------------|
| 上北栗小瀬   | 林川栖木原  | 久正マサ雅栄    | 雄夫エ子一    | 岸喜小後坂      | 喜田村泉藤本   | 堅正義英ハ信 | 一次兵ニル男 | 北木小小核     | 喜庭永陽秀米次郎 | 喜八郎助造男郎 | 北熊合紺笹      | 川本田堅公     | 賢水公     | 二頼博茂弘      |
| 佐清千     | 竹水田    | みね孝之男     | 子介男      | 佐清園        | 守水       | つるえ    | 男静え    | 澁白高       | 重俊       | 雄充夫     | 嶋杉高        | 田山木       | 豊公三郎    | 春茂郎        |
| 高竹橋辻    | 木島勝    | 俊一喜重      | 郎造美流子    | 高武谷常       | 田山松      | 喜太郎三   | 喜太郎三   | 滝竹田出友     | 藤村田      | 教一太郎    | 竹立塚寺中      | 内川本岡      | 和利政脩治吉  | 子明之代三恵保三郎等 |
| 土中中     | 井井元田坂岡 | 久善藤義利     | 郎茂文暁男    | 戸永西丹橋日     | 井起羽爪倉    | 喜太郎三   | 喜太郎三   | 永西經橋平富    | 喜一太郎     | 喜一太郎    | 長谷川        | 沢川        | 新十元節正尚静 | 司え典哉人之子二子雄 |
| 西野花平藤藤前 | 三村森山山吉 | 成芝都澄一男清朗泰 | 周英澄一男清朗泰 | 福藤細丸三村守山弓米 | 井岡谷田屋岡場田 | 喜太郎三   | 喜太郎三   | 藤田部山佐黒山口尾 | 喜一太郎     | 喜一太郎    | 平藤藤本万宮森安山吉 | 井井原郷井田田本岡 | 新十元節正尚静 | 司え典哉人之子二子雄 |

幹事会議事録抄

第1回幹事会 昭和39年9月26日 於神戸大学教育学部会議室

- 開催の基本方針  
「とくに教育と関連した学校保健」を主題として学会の企画をすすめる。
- 組織運営について  
総会の役員については別記のとおり決定し、会長が委嘱する。
- 開催要項について  
開催時期及び場所については別記の通り決定した。  
一般演題、特別講演、シンポジウムの企画については、各幹事が次回幹事会までに基本方針を反映しうるようなものを検討し持ち寄る。
- 「学会通信」について

第11回学会事務局が発行していた「学会通信」を継続して発行する  
第2回幹事会 昭和39年11月21日 於以和貴荘(大阪)

○開催要項の細目について

開催要項の細目として、一般講演、特別講演、シンポジウムの企画について、第2回総会幹事会によつて作成された原案を提示し、審議されたが、企画の決定は、さらにこの日の各幹事の意見を取入れてよりよいものにするように総会幹事に一任された。

第3回幹事会

昭和40年2月20日(土)午後2時より神戸大学教育学部会議室に於いて開催の予定  
議 題 (1) 学会の企画の決定 (2) その他

その他事務局記事

第11回近畿学校保健学会事務局(京大教養部保健体育学教室)との事務引継ぎは、昭和39年7月15日神戸大学教育学部教育衛生学教室に於いて行なわれた。この席上、第11回学会の収支決算の結果として、残高の5,161円が第12回学会の会計に繰り入れられた。なお7月25日付で、京大を通じて、「学会通信」発行のための経費として「啓林館新興出版社」より10,000円の寄付を受けた。

日本学校保健学会記事

近畿地区理事(アイウエオ順)

伊 東 祐 一 川 畑 愛 義 佐 守 信 男

近畿地区評議員(アイウエオ順)

評議員については、近畿地区六府県の実情にそくして、僭越ではあるがそれぞれ伊東祐一(大阪府)、川畑愛義(京都府)、伊良子光義(滋賀県)、永井豊太郎(奈良県)、千田 勇(和歌山県)、佐守信男(兵庫県)の諸氏に依頼して、改選していただいた。これらの方々を日本学校保健学会の近畿地区の評議員として、昨年末、学会事務局の東京大学教育学部健康教育学研究室に連絡し、承認されたものである。

|           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 和 泉 正 忠   | 伊 東 祐 一   | 今 井 英 夫   | 伊良子 光 義   |
| 奥 岩 吉     | 大 島 明 雄   | 大 西 輝 彦   | 片 岡 慶 有   |
| 加 藤 哲 夫   | 川 口 吉 雄   | 川 畑 愛 義   | 喜田村 正 次   |
| 合 田 博     | 禰 原 栄 一   | 佐 守 信 男   | 白 川 充     |
| 杉 山 茂     | 千 田 勇     | 高 井 俊 夫   | 高 木 俊 一 郎 |
| 高 田 喜 太 郎 | 竹 村 一     | 武 田 真 太 郎 | 戸 田 嘉 秋   |
| 橋 重 美     | 出 口 庄 佑   | 西 起 三 郎   | 永 井 豊 太 郎 |
| 西 田 義 文   | 長 谷 川 等   | 花 岡 利 昌   | 平 井 新 司   |
| 富 士 貞 吉   | 細 部 新 一 郎 | 三 浦 運 一   | 宮 田 尚 之   |
| 目 黒 庸 雄   | 山 岡 誠 一   | 山 本 勝 朗   | 吉 田 文 雄   |

昭和40年度の第12回日本学校保健学会については、昨年の11月金沢に於ける第11回日本学校保健学会の総会で次のようにきまつた。

第12回日本学校保健学会

会 長 水 野 宏(名古屋大学医学部 教授) 開催地 名古屋